光といのち

第149号

―秋彼岸―

2024年9月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299－2214

千葉県南房総市二部1344

電話　0470－57－2657

FAX　0470－57－2290

E-メール　info@syozenji.or.jp

URL　http://syozenji.or.jp/

住職　釋孝昌(井上孝昌)

命を食べて
命をつなぐ
だから食前食後は
手を合わせて
いただきます
ごちそうさま
池田勇諦師

祖師前お仏飯

中尊前お仏飯

食前のことば

み光のもと
われ今幸いに
この浄き食をうく
いただきます

食後のことば

われ今
この浄き食を終わりて
心豊かに力身に満つ
ごちそうさま

真宗大谷派では、お仏飯を朝のお勤めをしておそなえし、その後に朝食をいただきます。

「お供え」ではありません。「お備え」です。

どう違うのか？

「お供え」は、私が神仏・亡き人のために、献ずる・差し上げることです。「お備え」は、仏さまから食べ物をいただく準備です。

年配の方から「子どもの頃、朝お勤めをしてからでないと、ご飯を食べさせてもらえなかった。」と聞きますし、今もそれは同じです。

食べ物は、仏さまからいただくものです。

自然の豊かな恵があってこそ、さらに数え切れない人たちのご苦労を経てやっと、食べ物が食卓に上ります。題字下の法語は、それを明快に教えてくれます。

「ごちそうさま」は、その食べ物をいただき命を繋げた感謝の言葉。私が生きるために命を奪われた動植物や手間暇かけてくださった方々への謝罪です。

食事は、単に栄養を摂取するだけでなく、すべてと関係し合って存在している私であると気づかせる仏事です。

ところがいざ料理を前にすると、「これは旨そう」とか「まずい」、「これは珍しい」とか「またこれか」、「手をかけた料理」とか「今日は手抜きだ」と、わがままが出てきます。

それだからこそ、「いただきます」「ごちそうさま」と掌を合わせます。

「本当のことがわかればわかるほど、それと逆な在り方をして生きている自分が、いつも問われていく」（池田勇諦先生）

親鸞聖人や先達の歩んだ道が、「そうであったか」と知らされると、なんだか嬉しくなるのですが、はたして**毎日三度の食事が、仏事になっているのか。**

南無阿弥陀仏

「仏法のことは、いそげいそげ」

秋彼岸会

9月22日（日）

秋分の日

10時～11時30分

この文章は、作文により「自己凝視の力と人間的連帯感を生徒たちに身につけさせることができる。」（「腰掛け教師の作文指導の足跡」佐野斉孝）と生徒を指導された高校国語教師が書かれたものです。真宗門徒の具(そな)えている感覚を教えられました。

いつのころからか、はっきりしないが、私には妙なこだわりがある。

刺身を食べる。すきやきを食べる。そのときそれらの材料となった魚や牛たちのことが妙に気になるのである。

命を奪(と)られるとき、さぞ、つらかったろう。苦しかったろう。という思いが浮かんで、消えない。

結局、

すまない。

と詫びるような気持ちで食べることになる。

自分は少し、おかしいのではないか。

と不安になることもあるが、いたし方もない。

私は、また、私のささやかな住まいの敷地に生える雑草も、心おだやかに抜くことができない。

雑草たちも精いっぱいに生きている。

生きようとしているのだ。

と思うと、人目について特に見苦しく感じられる場所以外の雑草は、むやみに抜くことができない。

やむをえず引き抜く場合でも、

ごめんよ。

と胸の中でつぶやいたりする。

私の生まれた北陸の越前の国は「仏教王国」と呼ばれ、浄土真宗の盛んなところで、私は小学生のころから母に連れられ、よくお寺参りをしていた。そして、

「無益な殺生(せつしょう)はするな」

と、つよく教えられて育った。

若いころは、そのような教えなど、すっかり忘却していた。

ところが齢(よわい)を重ねるうちに、その教えがよみがえり、いつのころからか、

生あるすべてのものと、ともに生きる。

生きさせていただく。

という思念が私の体の中に根づいていたようであった。

近年、地球の環境保全の運動として、自然を大切にし、地球上のあらゆる生物との共生共存をはかる考え方が出てきているが、私は共感するところ、大なるものがある。

私の生徒観も同様の思念に基づいている。

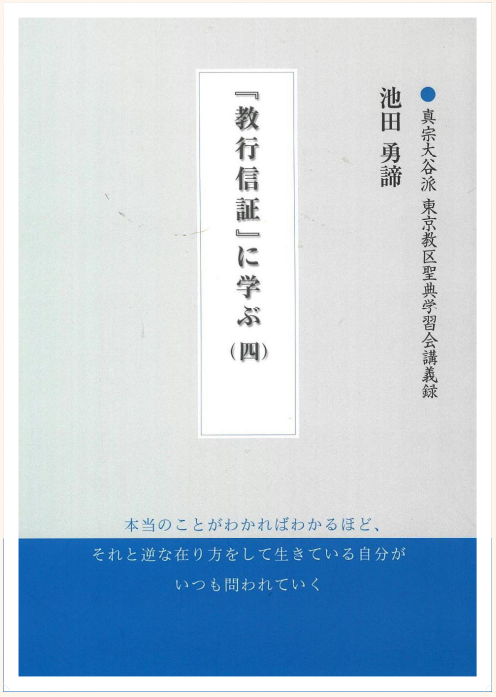
私は生徒たち、子どもたちを、私との上下関係で見ることはできない。知識の量においては、あるいは私の方に多少の優越があるとしても、それがどれほどのことであろう。私の国語教育研究の上では、生徒たちから私が学んだことの方が、はるかに多かったのである。

（「あとがき」より　一光社刊行）

いのちより大切なものが見つからねば

今日は「いのち、いのち」ということがやかましくいわれますが、曽我量深師のものを読んでおりましたらその言葉に出遇ってハッとしたことです。「いのちより尊いものに遇わせていただかなければ、このいのちを本当に尊ぶことはできない」（取意）と語っておられます。ですから、このお言葉を読んで私は現代批判をなさっているお心を感じるのです。いくら「いのち、いのち」と叫んでみたところで、いのちより尊いものが見つかることがなければそんなことは「そらごとたわごと」※（『真宗聖典六四一頁）ではないのか。いのちの尊さとか、尊厳だとかいっていることがみな空回りしてしまうのでないか。いのちより尊いものがあきらかになって初めてこのいのちの大切さ。そして同時にそのいのちより尊いものにこそ、このいのちを懸けるということがでてくるのでないかと。そんなきびしさがここに感ぜられてなりませんね。それを昔の人の言葉でいえば「後生の一大事」、後生の一大事はいのちより尊いものなのですね。その後生の一大事がはっきりするということにおいて、この現前のいのちの本当の尊さがわかる。だから後生の一大事にいのちを懸けたわけでしょう。それが開法、求道ということですから。単にいのちの尊さということをどれほどいってみたところで、曽我先生がおっしゃる「いのちより尊いものに遇わせていただかなければ」、「そらごと」ではないのか。空回りすることでないかと教えられることでございます。

※『歎異抄』後序「火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします。」



（真宗大谷派東京教務所発行）

右ページの文章は、真宗会館に日曜礼拝の講師として赴いた際、著者のご子息佐野直人氏からいただいたものです。

一読し、かつて高校教員であった自分を恥ずかしく思いました。私は、動植物への「すまない」「ごめんよ」と仏教的謝罪をする心もなく、また生徒を下に見て指導し上から裁いていたからです。当時は、あるべき生徒に育てる指導を教師の仕事と考え、一生懸命でした。仏教の知識は多少ありましたが、仏教を生きてはいませんでした。

左ページ文中の「いのちより尊いものに遇わせていただかなければ、このいのちを本当に尊ぶことはできない」という先達の教えは、私にはずっと理解しがたいものでした。

世間で人の「いのち」という場合は、生物としての命、あるいは個人の人格をいうこともある。個人の尊厳より尊いことなどあるのだろうか、と考えていたからです。

ところが、仏教でいう人の「いのち」は、すべてとの関係性のことで「無量寿」とか「後生」といわれます。

その「いのち」を知らなかったのです。

この「いのち」の中に、自己を発見する。これが「後生の一大事」、仏教の目的です。

自我から解放されるこの一瞬が、仏教の救い。神仏に依存し夢に酔い癒やされ、自己満足することではありません。

ご予定ください

報恩講に向けて

役員会
10月6日13時30分～

世話人総会
10月20日13時30分～

仏具磨き
11月11日13時30分～

報恩講準備
11月15日13時30分～

逮夜　15日15時～
晨朝　16日6時～
日中　16日10時～

秋彼岸会　秋分の日

9月22日（日）

修正会
1月2日（木）

春彼岸会　春分の日
3月20日（木）

盂蘭盆会
8月10日（日）

時間　10時～11時30分

※ズームで配信します。

月曜朝のお勤め

毎週月曜日6時～

正信偈（しょうしんげ）などを一緒にお勤めします。「御文（おふみ）」を拝読後に、住職の法話があります。毎週月曜は、寺で人生の再出発！ 若さあふれる老人が参加しています。

仏教を聞き語り合う会（同朋の会）

弟子唯円房が聞いた親鸞聖人の教えを記した『歎異抄（たんにしょう）』をテキストに、感じたこと思ったことを語り合います。

第1回　10月13日（日）
第2回　2月9日（日）
第3回　4月6日（日）
第4回　5月11日（日）　兼花まつり
第5回　7月20日（日）

講師　住職

時間　13時30分～16時

参加費　500円

テキスト　『歎異抄　白日抄（はくじつしょう）』　1000円

※ズームで配信します。

勝善寺聞法会

名古屋の高校で教鞭を執っている副住職が、法話します。

第1回　12月15日（日）
第2回　6月8日（日）

時間　13時30分～16時

参加費　500円

テキスト　『歎異抄　白日抄』

※ズームで配信します。

親鸞教室（もんぼうかい）

千葉組主催の聞法会です。

「僧侶が、お葬式や法事をなぜするのか？」

講師は、京都にある教学研究所所員松下英俊先生です。

実施日
10月10日（木）勝善寺
12月17日（火）勝善寺
1月23日（木）西蓮寺
2月26日（水）勝善寺
4月30日（水）勝善寺
5月29日（木）西蓮寺

時間　13時～16時

参加費　500円（西蓮寺会場で参加した場合）

※勝善寺会場は、ズームで聴聞し、終了後に30分ほど座談します。

※毎回ズーム配信します。

地区聞法会

八日講十日講
1月8日（水）
6月1日（日）
9時～11時

中佐久間講
5月20日（火）
13時30分～16時

◎地区聞法会を開きませんか。二人以上集まれば開催できます。

除夜の鐘

12月31日23時45分～

煩悩が除けない除夜の鐘

奉仕作業　6月9日（日）

8時30分から2時間程度

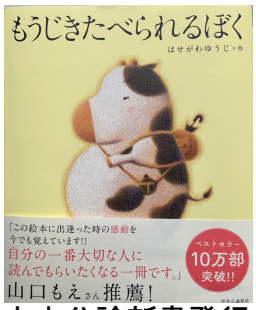
作業は草刈りとガラス拭きなど。世話人以外の方もお願いします。

市部西地区世話人交代

廣嶋敏雄様、有り難うございました。

増田一之様、よろしくお願いします。

ぜひ、読んでみてください。



中央公論新書発行
税込 1540 円